

NF 通信

ice arther



Vol.22

column

01

専門家コラム

西村医院 小児科医師 瀧上 佐智子さん



ウェルビーイング

WHOの憲章前文で、「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態（well-being）にあることをいいます。」と定義されています。こどものウェルビーイングってどのような状態なのでしょう？

「子どもは、だんだんと人間になるのではなく、すでに人間である」
コルチャック先生の言葉

私達は無意識にこどもはまだ半人前で、ちゃんと普通に成長させなくてはならないと思込んでいるのでしょうか。社会(多数派が営む社会)に適応出来ないようでは困ると勝手に不安になっていないのでしょうか。大人はこどもにこうあるべきとこどもに言い続け、安心して失敗できない環境をつくっていないのでしょうか。

目の前のこどもの声をちゃんと聞いてきたでしょうか。

こども達はちゃんと意思を持っています。

目の前にいるこどもの声を、親だけでなく周りの大人達がちゃんと聴いていきませんか(想像でもいいと思う)。大切なのは目の前のこどもの最善を、色々な大人が関わり意見を出し合いながら支えていく排除しない社会ではないのでしょうか。

その子のあるがままの自分でいて安心できる状態がこどものウェルビーイング。

決して医療や、権威や、強制で支えるものでもありません。こどもの気持ちも含めたみんなで支え合うものだと思います。そして何よりも支える大人が幸せで安定している事が大切だと思います。

最後にもう一度コルチャック先生の言葉です。

そしてその子の良いところを大人が子どもを理解することは、大人自身が自分をいかに理解するか。子どもを愛することは、自分自身をいかに愛せるか。人はだれしも大きな子どもだから。子どもには失敗する権利がある。

column

02

NFリレーコラム

田中 康裕さん

普段、仕事等の関係で接する時間が限られるので、子どもたちの普段の学校生活や遊びへの関心等を知る機会を得た時には積極的に、対話をするように心がけています。

また、一緒に過ごす時間は、学校生活、普段の生活では経験できないことを、お互い経験出来るような計画を立てることが多いです。

今後、どんどん成長する子供たちの変化に柔軟に対応していけるように心だけには余裕のある接し方をしていきたいと思えます。写真は、私の趣味だった魚捌きを子どもが関心をもったので、一緒にやっているものです。



あなたも投稿してみませんか

採用者には、こども商品券贈呈！

